

Title	ウエツブ著 労働組合主義の歴史
Sub Title	
Author	堀江, 帰一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1920
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.14, No.6 (1920. 6) ,p.860(122)- 863(125)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	新刊紹介
Genre	Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200600-0122">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19200600-0122</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

### 新刊紹介

ウェットプ氏著 「労働組合主義の歴史」

The History of Trade Unionism: By S. and B. Webb. (Revised Edition extended to 1920.) London: Longmans, Green and Co. pp. XVIII. 784 九善賣價十圓五十錢

ウェットプ氏夫妻の合著に係る「労働組合主義の歴史」は従来本文八章の外に若干の附録と新版當時の序文とより成り、近年絶へて改版増補の擧あることを聞かざりしが、今回兩氏は新に千九百二十年改訂版を刊行し本文に第九章三十年間の進歩(一八九〇—一九二〇年)第十章國家に於ける労働組合主義の地位(一八九〇—一九二〇年)第十一章政治上の組織(一九〇〇—一九二〇年)と題する三章を増補し附録の最終にも

「産業の經營に對する労働組合主義の關係」と題する一文を追加し、斯くて前版の頁數五百五十八頁に對して新版の頁數を七百八十四頁の多きに上らしめたり。

ウェットプ氏の著書が従来労働組合の研究者に對して貴重の資料たりしは、余の絮説を要せざる所なり。唯最近三十年間英國の労働組合に就ては、其組織運動法若しくは立法に對する關係等諸般の事項に互りて、新に論議を要するもの少なしとせざりき。立法の方面のみに就て見るも、千九百六年の産業争議法、千九百八年の最低賃銀公定局法、千九百八年の炭坑八時間労働法、千九百十一年の國民保險法、千九百十三年の労働組合法、千九百十七年の穀物生産法、千九百十八年の最低賃銀公定局擴張法の如き、何れも労働組合の運動に大なる影響を及ぼさざれば已まざるのみならず、組合の組織に就ても、

従來の如き「フェデレーション」と「アマルガメーション」との孰れを可なりとするやと云ふ範圍の局限せられたる問題に止まらず、此以上に労働組合をして一國の政治制度に、將た又經濟組織に如何なる地位を保たしむ可きやの問題を生ずるに至れり。ウェットプ氏が本書の新版に於て、或は「資本的利潤獲得者の排除に關する要求」を論じ、或は政治制度と労働組合との關係を説き或は労働者の産業管理權に及びたるは要するに如上の時勢に備へんとしたるものと見る可し。其「プロフキチャリング」に對する政策を論ずる一節に曰く

諸種の産業並に勤勞を國有又は公有に移し若しくは消費者共同組合をして彼等を併合せしむるの要求は戰爭中並に休戦後プロフキチャリングを防遏する目的を以て行はれたる諸種の方法の失敗したる結果として、一段の強

きを致すに至れり。資本家的聯合並に代價協定の急速なる發達、代價暴騰を防止せんとする嚴酷なる政府の監督の不成功、法定最高價格を以てするも、設備不良、能率劣等なる事業の生産費を標準とするに過ぎざるの事實、企業計畫全體を通じて行はれたる暴利の獲得、消費者の孤立無援等は自ら賃銀收得者、定額の所得に衣食する者並に或る種の事業家をして私有制度に代つて、漸次公有制度を實施するの外に何等の道なきことを感せしめたり。此點に於ける輿論の進歩は自然公有制度に對する賛成論を誘導し、又労働組合會議並に労働黨大會に於て主張せられたるが如く其事業の經營並に監督に労働者を參加せしむるに至らざれば已まざる可しと。

右の一節はウェットプ氏が將來の社會組織に就て如何なる意見を懷抱するやを知るの道たる可

し。此他「サンヂオカリズム」「インダストリアル、ユニオニズム」直接行動ギルド社會主義と英國労働組合運動との關係の如き、最も明瞭に論述せられ、遺憾なきものと認めざるを得ず。斯くて新装せられたる「英國労働組合主義」の歴史は一卷の下に、英國労働組合の歴史と現状とを明にし、他の追隨を許さざるの地位に立つものとす可し。ウェップ氏の著書全體を通じて特に感ずる所は其思想の清新の氣に充てること是れなり。現に本書の前版に於て、「労働組合を以て、雇傭の條件を維持し又は改良するの目的を有する賃銀收得者の繼續的結社なり」と定義したるを新版に於ては雇傭の條件なる文字を削除して彼等の労働上の生活なる文字を採用したり。而して斯く改正したる理由は雇傭の條件なる文字を用ゆるときは、労働組合は資本制度又は賃銀制度の永久的存続を承認するの嫌あり、

然も斯る推測は敢て事實に當らず労働組合は既往世紀に於ける幾多の時期に臨み社會的又は經濟的關係に於ける革命的更新を鼓吹したる事實に存するものなりとしたり。然らば前版に於ては、現在の經濟組織と調和するの外に、何等の企畫を有せざりし労働組合も新版に於ては、經濟組織革新の新使命を懷抱するものとして、取扱はれたるを見る可く、斯の如きは労働組合の目的に變化の生じたる今日に於て、必然の修正なると共に、ウェップ氏が時勢の變動を察するに、如何に敏俊にして、些の躊躇するものなきやを示すの資料とす可く、此點に於て吾人はウェップ氏の頭腦の融通性に富むことを認めんとす。此他第十章の後半「思想に於ける革命」と題する項以後の如き將た又第十一章の如き、労働組合運動史と云はんよりも、寧ろ社會改造に伴う新思想を示したりと稱するを以て當れりとす可き

か。改造問題の喧しき今日ウェップ氏の力作能く此新刊を公にしたるは、時機に適したりとす可し。余は本書を讀者に推薦するの外他に言ふ可き所を知らざるなり。(堀江歸一)

Summa Theologica の英譯

歐洲中世思想の大記念碑たる Thomas Aquinas が大著 Summa Theologica の哲學史上の位置に就ては今新に絮説する事を須かず。而して此の書の經濟學說史的價值に就ては既に邦文にては福田博士の長篇「トマスダキノ經濟學說」歐文にて廣く我邦に行はるゝものには Ashley, Economic History and Theory の在るあり。茲には拉典語を能くせざるものゝ爲め、此大著の英譯が刊行せられつゝあるの一事を記すを以て足れりとすべし。英譯題して

The "Summa Theologica" of St. Thomas

第十四卷 (八六三) 新刊紹介

Aquinas. Literally translated by Fathers of the English Dominican Province. R. & T. Washbourne, Ltd. London etc.

と云ひ、全部十七卷を以て成る。其内容を示せば左の如し。

- 第一部
- \* 第一卷 神及び神の屬性
- \* 第二卷 三位一體——創造——天使——六日の業
- \* 第三卷 人間——神政 (divine government)
- 第二部上 Prima-Secundae
- \* 第一卷 人間の目的——人間の行爲——慾情
- \* 第二卷 習性——徳及び不善
- \* 第三卷 正義、仁恵
- 第二部下 Secunda-Secundae
- \* 第一卷 信仰希望及び慈善
- \* 第二卷 用心——正義
- \* 第三卷 正義(續論)
- \* 第四卷 堅忍——節制
- \* 第五卷 恩寵——生活諸狀態
- 第三部及び附録
- \* 第一卷 降生